

ゆい
結通信

NO. 42

2019年7月25日

一人一人が大切にされる社会に

牧野 直子

大阪府・市W選、府議選、参院選を終えて

早いもので今年ももう7か月が過ぎ、後半に入りました。今年に入って色々なことがありました。4月の大阪府・市W選、府議選について7月の参院選でも大阪維新が圧倒的支持を得ました。参院選では50%を割る低投票率というのも気にかかります。

6月のG20サミットという大阪を舞台にした国際会議では物々しい警備や交通規制で日常生活に大きな影響が出ました。また 5月には子どもたちの殺傷事件、6月に犯人が箕面市内で逮捕された吹田の交番襲撃事件、7月には京都アニメーションの放火による痛ましい事件が起こり、何とも心が落ち着かない日々が続きました。そして相変わらず地震や豪雨の危険性に脅かされています。また今やあまり報じられなくなりましたが、沖縄辺野古では今もまだ土砂投入が続けられています。

今私たちに必要なものは？

10年前の結通信No.2(2009年6月末)「地域を耕す」を読み返して今思いを新たにしています。「民主主義が育つ土壌を育てよう」この思いは今も変わりません。高度経済成長期から低成長の時代に入り、もはやこれまでの景気浮揚策は通用しないのに、まだオリンピックや万博などカンフル剤でごまかそうとしているようにみえます。今私たちに一番必要なのは、「こんな社会を創りたい」というイメージの共有ではないでしょうか。政策というのはそれを実現するための具体的な方策です。ではどんな社会なら次世代も希望を持って生きていけるのでしょうか？ 国境を越えて地球環境にやさしく、命を大切にできる社会はどうしたら作れるのでしょうか？ 大きな問題ですが、ひよっとするとすぐ近くにヒントがあるかもしれません。

お互いの命を大切にできる社会に

さて、サミットの警備や犯罪の捜査に「防犯カメラ」が大きな役割を果たしているようです。怪しい人物をキャッチすることが犯罪防止に役立つとすることで防犯カメラを増やすことが奨励されています。しかし、その前にまずお互いに声をかけ合うようなお付き合いが大切ではないでしょうか？ そして自分の抱える問題を相談できるような人がいるかどうか。ハードだけではなくソフトがないと安全は確保できません。過労で自らの命を絶つ人、犯罪に走る人、子どもを虐待する人・・・一人一人が大切にされる社会であってほしいと心から思います。「社会のために」「国家のために」自分がいるのではなく、それぞれがお互いの命を尊重し合う社会になるためには自分はどうあればいいか、そんなことを思いながら、「結みのお」の活動を続けてきました。

北急延伸3年延期に思う

さて2020年開業を目指していた北大阪急行延伸工事がこのたび、3年延期になるという思いがけないニュースが飛び込んできました。ただし、船場地域に建設中の図書館やホール、生涯学習施設は予定通り2021年春オープンとのこと。しかし、今回のことがあって、改めて船場や萱野の地域に目が向きました。箕面のニュータウン建設を通して、今後の交通体系のことや公共施設の果たす役割など、ハードとソフトがかみ合った持続可能なまちづくりを考えていく機会にしたいと思います。

結通信では今回、その特集を組みましたので、一緒に考えていただければうれしいです。

